

# 剣岳

## ツガザクラ

深田久弥は日本百名山において剣岳の書出しで次のように記している。「北アルプスの南の重鎮を穂高とすれば、北の俊英は剣岳であろう。」と。双壁とも層々たる岩に鏝われた登頂困難な山。草木とは無縁な山なのである。久弥は剣岳の項において、その登山歴史と登頂の困難さを綴っている。そして、最後に剣岳の一番見事な景観は、仙人池あたりから望んだものだと言及している。そう、岩山は離れて望むのが一番美しい。そして花も又、背景に

剣岳を望む場所に咲くものが美しいはずである。もともと、筆者の「花の山岳写真」はこの発想から生まれたもの。そして、二〇〇七年七月に剣岳に向った。ルートは室堂から別山乗越、剣山荘へ。初日は剣岳にガスがかかり、撮影不能。尾根沿いにハクサンイチゲ、コイワカガミ等が咲いていたが、他の高山植物は少ない。なかなか剣岳を背景に咲く花の姿を、絵になるように撮影する場所がない。山荘に泊まった翌日は快晴。

時折剣岳に雲がかかり、絶好の撮影チャンスだが、手前に置く花が見当たらない。あせつて方々を探すがなかなかない。とうとう尾根まで登つてくると、往路は気が付かなかったが、足元に小さなツガザクラが咲いていた。ツガザクラは小さいが樹木。おそらく氷河期からこの地に咲き続けているものだろう。寿命は短い、種の更新で生き続けているに違いない。さすれば、樹齢数千年の太木に匹敵する貴重さではなからうか。さて、ツガザクラを見つけは

よいが、足元に咲く小さな花と、眼前に聳える剣岳を同時にカメラで捉える事ができるだろうか。大形カメラを花の前十センチに置き、腹這いになってファインダーを覗く。そして、蛇腹を限界にまでおろして、何とか撮影に成功した。

